

ヤドカリとイソギンチャクの共生

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館



ヤドカリの中には、間借りしている貝殻の上にイソギンチャクをすまわしているものが多い。両者の関係は共生の好例とされ、小学校4年生の国語の教科書にも取り上げられているほどだ。

ヤドカリは天敵のタコやカニ、魚などからイソギンチャクを保護する。一方、イソギンチャクはヤドカリの餌のおぼれにあずかり、共に移動できる。

ことによって食物のバラエティーが広がる。さらにヒトデなどから襲われること

△
ベニヒモイソギンチャクを背負ったソメヤドカリ (水槽番号211)

イソギンチャクは非常食

その結果、ヤドカリは空腹状態が続くとイソギンチャクを貝殻からはがして食べることで、それによって体重の減り方が抑えられることなどが明らかとなった。

これらを総合すると、自然界のヤドカリは共生するイソギンチャクをめぐってに食することはないのである。

(京都大学技術職員)

もない。このようにお互いに利益をもたらしているのである。

た。このことから、ヤドカリとイソギンチャクとの共生の進化は、イソギンチャクを岩からはがして食べる習性を持つヤドカリが、貝殻の上に非常食として背負うようになったことから始まったのではないかと推論した。

ところが、この話に水を差すような観察例が、30年ほど前からボツボツと報告され始めた。ヤドカリが事もあろうに共生しているイソギンチャクを食べるというものだ。

しかし、ヤドカリは活発でいろいろなものを食べるので、現在、野外ではなかなか餌不足にはならないと言われている。それに、共生イソギンチャクはヤドカリの貝殻以外の場所ではほとんど見られないことから、ヤドカリの貝殻が安定したすみかとなつてきているようだ。